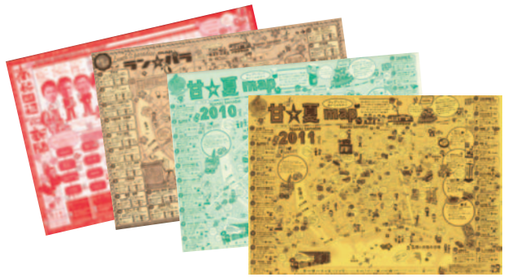
あがら☆たなべぇ調査隊
隊長　池田（いけだ）　周作（しゅうさく） さん

歩いて分かる「まち」の魅力

「かつてのまちのにぎわいを少しでも取り戻せるように、平成20年に〝あがら☆たなべぇ調査隊〟を結成し、スイーツ、麺、ランチといったテーマ別に手作りマップを作りました。まち中を歩いて、いろんなお店をもっと楽しんでもらおうという企画です。調査隊のメンバーは、それぞれ仕事を持っていながらボランティアで活動してくれる人ばかり。その原動力は、何と言っても〝田辺が好き！〟なんですよ。」

　この活動を通じて隊長の池田さん自身が、自分が住むまちの魅力を再発見でき、誇りに思えたことが大きいと言います。今後のまちづくりを担う若い世代たちが「歩いて分かるまちの魅力」をこれからも広く発信し続けていきます。



調査隊員自らが、収集した情報を元に取材、制作まで全て行った手作りマップです。和歌山大学南紀熊野サテライトのスタッフがイラストを描いてくれるなど、様々な人の協力と応援が集いました。

"agara☆tanabe research-team" is an organization formed in 2008 by young local volunteers. It seeks to increase the liveliness of Tanabe City and spread word of its many charms.

コンペティション部門では、審査員に映画有識者と映画検定1、2級合格者を迎え、「弁慶グランプリ」「映検審査員賞」を決めます。市民審査による「市民賞」の選定や受賞作品の都内上映なども特徴です。

映画祭を通して地域の文化的活性化を

　映画祭を通じて、交流人口の増加と映画文化の振興を図ることで、田辺市へ来訪された映画関係者と市民とのコミュニケーションが活発になり、それらが地域活性化につながるようにと「田辺・弁慶映画祭」が平成19年10月に初めて開催されました。以来、毎年回を重ねるうちに、商業映画デビューを果たす作品が出るなど、新人映画監督の登竜門となる映画祭として評価が高まっています。

　当初、スタッフは地元の有志が大半で、手作り感覚の映画祭でしたが、着実にその内容は濃いものとなり、応募作品数が増加するとともに、品質も向上しているほか、スタッフの人材育成への取組なども充実してきました。

　映画祭実行委員長の中田さんは「子どもからお年寄りまで幅広い年代の方々が映画に興味を持ってくれると嬉しいです。1年を通して公民館やいろんな施設で映画の上映会をするなどして大きく広げていき、多くの映画ファンを田辺市に集めたいですね。」と話します。

　文化的事業はすぐに経済効果に結び付くものではありませんが、経済以上の効果が映画祭にはあります。

　文化的意識の向上は、やがて大きなうねりを作り、まちを活性化していく力を生み出していくことになりそうです。

The Tanabe Benkei Film Festival has been held every year since 2007. This highly esteemed festival has even been host to commercial film debuts.

田辺・弁慶映画祭 実行委員会
実行委員長　中田（なかた）　吉昭（よしあき） さん

ちかの平安の郷（さと）推進協議会
会長　久保（くぼ）　智彦（ともひこ） さん

地域の人と観光客との交流の場

　近露（近露・野中）地域は、世界遺産である熊野古道の滝尻王子から熊野本宮大社までの中間部にあり、古くから熊野詣での宿場町として栄えた地区。そんな近野をもっと知ってもらおうと活動している人たちがいます。

「熊野の観光案内や歴史の紹介ができる休憩所があればと考えていました。ちょうどその頃、日本画家〝野長瀬晩花〟の生家を残そうという話があり、修復整備して〝近露観光交流館（ちかの平安の郷かめや）〟として平成25年7月にオープンしました。地域の人々と観光客との交流の場となっています。」

　運営しているのは地域住民。そこにIターンの若い世代も加わり、様々なイベントを企画し、実行しています。

高菜の漬物づくりやエコクラフトなどのものづくり体験を観光客が地元の人と一緒にしたり、俳句会に参加したりと、にぎわっています。またIターンの若者たちがジビエ料理に着目し、ビジネスにつながる取組も行っています。

The Chikatsuyu Tourism Salon (Chikano Heian-no-Sato Kameya) is a rest place where local residents share historical and tourist information with visitors. Created to foster exchange between locals and tourists, it is located in the childhood home of the famous painter Banka Nonagase.